

- 問1 浄水場では、水の中の小さな汚れを取りのぞくために、砂などの層を通してきれいにする「ろ過」という作業を行います。では、きれいになった水を各家庭に届ける直前に一時的にためておく場所を何といいますか。
- 問2 新聞や雑誌などの紙類を正しく分別して出すと、何に生まれ変わることが多いでしょうか。
- 問3 一度使った水を、きれいにしてから再び使うことを何といいますか。
- 問4 使い終わった後に、もう一度新しい製品の材料として作り変えることができるごみのことを何と言いますか。
- 問5 人々が住む場所で、限られた水資源を大切に守っていくためには、どのような心がけが一番大切でしょうか。
- 問6 清掃工場でごみを燃やしたあとに残る「灰」は、最終的にどうなりますか。
- 問7 火力発電で使われる石油や石炭などの化石燃料を使い続けると、将来どのような問題が起きると考えられていますか。
- 問8 使い終わったものを、一度分解したり溶かしたりして「原料」に戻してから、新しい製品に作りかえることを何といいますか。
- 問9 日本で水力発電が昔からさかんに利用されてきた理由は、どのような自然環境があるからですか。
- 問10 ごみとして捨てるときに、商品や容器包装についている「リサイクルマーク」を確認することには、どのような理由がありますか。
- 問11 家庭で「ふろの残り湯」を洗濯に使うのは、なぜ水資源を守るために良いことなのでしょう。
- 問12 清掃工場でごみを燃やす、一番の目的は何でしょうか。
- 問13 工場で機械を冷やすために使った水を、繰り返し使う取り組みには、どのような目的がありますか。
- 問14 使わなくなった服を、ごみとして捨てるのではなく、必要としている人に譲るような、形を変えずに繰り返し使う取り組みのことを何と言いますか。
- 問15 日本でいろいろな種類の発電方法が使い分けられているのは、なぜですか。
- 問16 リユースを進めることで、どのような良い効果がありますか。
- 問17 エネルギー源を燃やして、その熱で電気を作り出す方法を何と言いますか。
- 問18 家庭から出されたごみや資源を回収して、清掃工場まで運ぶために使われる特別な車を何と言いますか。
- 問19 家や学校で使ったあとのよごれた水は、どこへ運ばれてきれいにする処理がおこなわれますか。
- 問20 私たちがごみを減らすために、まず「リデュース（ごみそのものを減らす）」を意識することが大切なのはなぜですか。
- 問21 工場から出る「工場排水」について、工場が守らなければならない大切なルールは何でしょう。

答え合わせ・解説 No.1

問1	答え 配水池	浄水場でしっかりとよごれを落としてきれいになった水は、配水池という場所にためられます。そこから、たくさんの水道管を通して、みんなの家の蛇口まで水が運ばれていきます。
問2	答え トイレットペーパー	新聞や雑誌などの古紙は、回収された後に工場で溶かされ、再び紙製品としてリサイクルされます。その代表的な例が、私たちが毎日使うトイレットペーパーです。このように資源を循環させることは、ごみを減らすためにとても大切なことです。
問3	答え 水の再利用	限りある水資源を大切にするため、工場で機械を冷やすために使った水などをきれいにして、もう一度使うことを「水の再利用」といいます。一度使った水も、適切に処理することで、再び役に立つ資源に生まれ変わります。
問4	答え 資源化物	スチール缶や新聞紙、ペットボトルなどは、適切に分別して出すことで、再び鉄や紙、服などの材料として生まれ変わることができます。このように、再び資源として再利用できるごみのことを資源化物と呼びます。
問5	答え 人口の数にかかわらず、一人ひとりが日頃から節水を心がける	水は限りある資源であるため、人口が多いか少ないかに関係なく、一人ひとりが効率的に使う努力が必要です。生活の中での節水や、水を汚さない工夫をみんなで進めることで、未来へ向けて安定して水を使うことができるようになります。
問6	答え 最終処分場（埋め立て地）に運ばれる	ごみを燃やすと、燃え残った灰が発生します。この灰の一部はセメントの材料などにリサイクルされますが、リサイクルできない残りの多くは「最終処分場」と呼ばれる埋め立て地に運ばれて埋められます。
問7	答え 燃料が枯渇する	地球上にある石油や石炭などの燃料は、無限にあるわけではありません。人間が使い続けると、いつかなくなる（枯渇する）可能性が高いため、新しいエネルギー源を探ることが大切になっています。
問8	答え リサイクル	一度バラバラにして原料の状態に戻すことがポイントです。そのままの形で繰り返し使う「リユース」と間違えないようにしましょう。
問9	答え 山が多く、雨もよく降るため水が豊かだから	水力発電には、高い位置から勢いよく流れる水が必要です。日本は山地が多くて高低差があり、雨もよく降るため、この発電方法に適した自然環境が整っています。
問10	答え ごみを正しく分別するため	リサイクルマークは、その製品が何からできているかを示しています。マークを確認して素材ごとに正しく分けることで、ごみを資源として再利用（リサイクル）しやすくなります。
問11	答え 一度使った水を捨てずに有効活用することで、新しい水道水を減らせるから	私たちが家庭で使う水道水には限りがあります。一度お風呂に使った水をそのまま捨ててしまうのではなく、もう一度洗濯に利用することで、新たに使う水道水の量を減らすことができます。このように、資源を無駄にせず繰り返し使う工夫は、地球の限られた水資源を守るために非常に重要な取り組みです。
問12	答え ごみの体積を小さくして、埋め立てる場所を長持ちさせるため	ごみをそのまま埋め立てると、すぐに埋め立てる場所がいっぱいになってしまいます。そのため、清掃工場でごみを燃やして体積を小さくし、埋め立て地の寿命を延ばすことが重要な役割の一つです。電気を作ることも行われていますが、それは燃やした時の熱を上手に活用する取り組みの一つです。
問13	答え 新しく使う水の量を減らすため	工場などで水を循環させて繰り返し使うのは、限りある水資源を大切に、外から新しく引いてくる水の量を減らすためです。水は大切な資源なので、できるだけ無駄にしない工夫がされています。
問14	答え リユース	一度使ったものを形を変えずに何度も繰り返し使うことを「リユース（再使用）」と言います。似た言葉に、一度ごみとして細かくして、別の製品の材料に変える「リサイクル（再生利用）」がありますが、形を変えずにそのまま使う点がリユースの特徴です。
問15	答え それぞれの発電方法で環境への影響やエネルギーの使いやすさが違うから	火力発電や原子力発電、自然の力を利用する発電には、それぞれメリットとデメリットがあります。例えば、資源がなくなる心配や地球環境への影響などが異なるため、目的にあわせて組み合わせたり使い分けたりすることが大切です。
問16	答え ごみの量を減らし、資源を無駄にしない	物を大切にしながら繰り返し使うことで、本来ごみになるはずだったものを減らすことができます。これにより、新しい物を作るために使う資源の消費を抑え、限りある資源を効率よく使うことにつながります。
問17	答え 火力発電	石炭や石油などの燃料を燃やすことで出る熱を利用して電気を作る方法を火力発電といいます。水力発電は水の流れを、太陽光発電は太陽の光を、風力発電は風の力をそれぞれエネルギー源として利用しています。
問18	答え しゅう集車	しゅう集車は、町のごみを効率よく集めて運ぶために作られた特別な車です。この車があることで、家庭から出たごみが素早く清掃工場へ運ばれ、町の中をきれいに保つことができます。

問19 答え 下水処理場	私たちが使った水は、地下にある下水道管を通して「下水処理場」へ集められます。そこで水をきれいにする処理をしてから、川や海へ放流することで、地域の水環境を守っています。浄水場は、逆に川の水をきれいにして飲み水を作る場所なので、混同しないようにしましょう。
問20 答え ごみそのものが出なければ、そのあとの処理の手間やエネルギーもいらなくなるから	ごみが出てからリサイクルするのも、実は多くのエネルギーや手間がかかります。一番の解決策は、そもそもごみを出さないように工夫すること（リデュース）です。
問21 答え 工場で汚れを取りのぞく処理してから下水道へ流す	工場から出る排水には、普通の生活排水とは異なる汚れが含まれていることがあります。そのため、環境を守るためには、工場がしっかりと汚れを取りのぞく処理をしてから下水道へ流すというルール（責任）があります。
